

サボテン温室における 奇想天外の生長

林 良 之

本園では、昭和55年3月、実生2年生の奇想天外（*Welwitschia bainesii* Carr.）をサボテン温室に植栽し、現在も育成中である。この間の生長記録をまとめたので報告する。

植え込み

内径20cm、長さ73cmの土管を温室の植え床に埋め、これに植え込んだ（図1参照）。

温度・湿度

昭和56年の月別平均温湿度を表1に示した。なお、植え込み後に記録した温室内の最高温度は53℃（56年5月1日）、最低温度は3℃（57年1月17日）である。

年間管理

灌水：5～9月には5～7日に1回、10～4月には7～10日に1回をめやすに、土の乾きぐあいに注意しながら行った。なお、生長初期には土管上部への灌水を中心に行ったが、根が土管の下部まで伸びたと思われる56年夏頃からは、主に土管基部への灌水を行っている。

施肥：行っていない。

病虫害防除：病虫害の発生はほとんどみられず、薬剤散布は行わなかったが、58年9月に少数のミノムシによる食害がみられたので捕殺した。



植栽状態

生長の記録

方法：年4回、春夏秋冬をめやすに、葉の長さ（a）、葉の最大幅（b）、茎の先端部の長径（c）を計測した（図2参照）。

計測結果：計測の結果は表2及び図3のとおりである。植え付け後の年数が浅いためか、生長は思ったより旺盛で、年平均20cm程度の葉の伸長がみられた。また、4～10月にかけてよく伸び、冬季には多少衰えるようである。

「趣味の多肉植物」には、「葉の生長の数倍にも根が伸長する」と書かれているが、これに従うと、この奇想天外はサボテン温室の客土部分を越え、基盤に達していると思われる。これが今後の生長にどう影響してくるか、引き続き観察の必要がある。また、59年4月には茎の先端中央部に、花芽と思われる突起物を観察した。これは後に褐変したが、現在新たにもう1個発生している。今後の生長記録とあわせて、開花に至るまでの観察も続けて行きたい。

〈参考文献〉

- 瀬川弥太郎：趣味の多肉植物 昭和44年
 近藤典生、水野辰司：園芸大辞典 p.3162 - 3163 昭和52年
 津山 尚：朝日百科・世界の植物 p.2413 - 2416 昭和52年

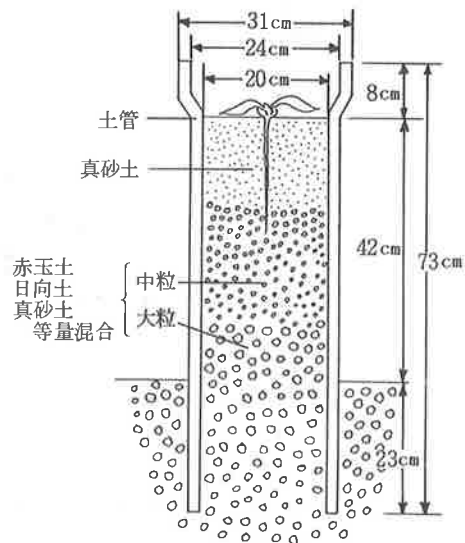


図1 植え込み

表1 サボテン温室年間温湿度

	月平均温度(°C)		月平均湿度(%)	
	最高	最低	10時	10時
56年1月	27.5	10.1	17.5	63
2	26.4	10.1	16.4	65
3	27.5	9.7	18.2	60
4	28.7	10.3	20.3	58
5	32.4	13.7	23.7	57
6	32.6	19.7	27.1	70
7	38.4	24.6	33.2	62
8	40.4	24.3	33.2	57
9	37.7	20.9	31.0	52
10	29.9	14.4	23.6	52
11	26.6	10.7	19.1	67
12	26.8	11.5	17.1	75
56年平均	31.2	15.0	23.4	61

表2 各部分の計測結果

計測年月日	a (葉長)	b (葉幅)	c (茎端径)
55・3・19 (植付時)	cm 13.5	cm 3.2	cm 2.9
11・6	18.1	3.5	3.2
56・2・25	21.0	4.1	3.5
8・4	33.1	5.6	4.2
10・29	46.4	5.9	4.6
57・2・10	50.8	6.7	4.8
5・26	55.3	7.9	5.0
10・5	72.7	9.0	5.2
12・5	74.5	9.2	5.2
58・1・19	75.6	9.5	5.3
3・2	75.8	10.0	5.4
7・26	88.9	10.3	6.5
8・28	89.5	10.5	6.5
11・1	93.5	10.5	6.5
59・3・7	95.7	10.8	6.5
4・17	97.5	11.0	6.5
10・28	104.2	11.8	7.1

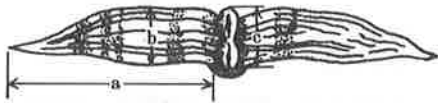


図2 計測部位

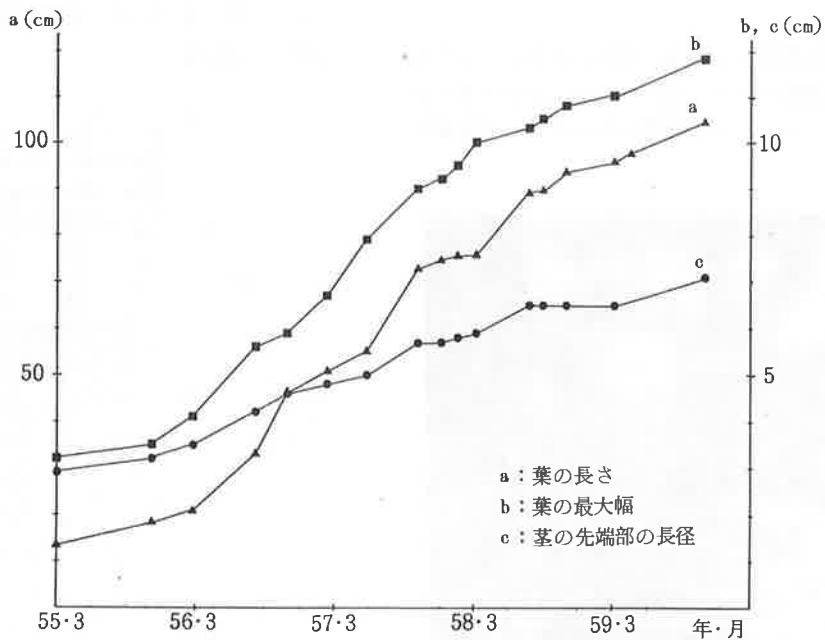


図3 各部分の生長のようす